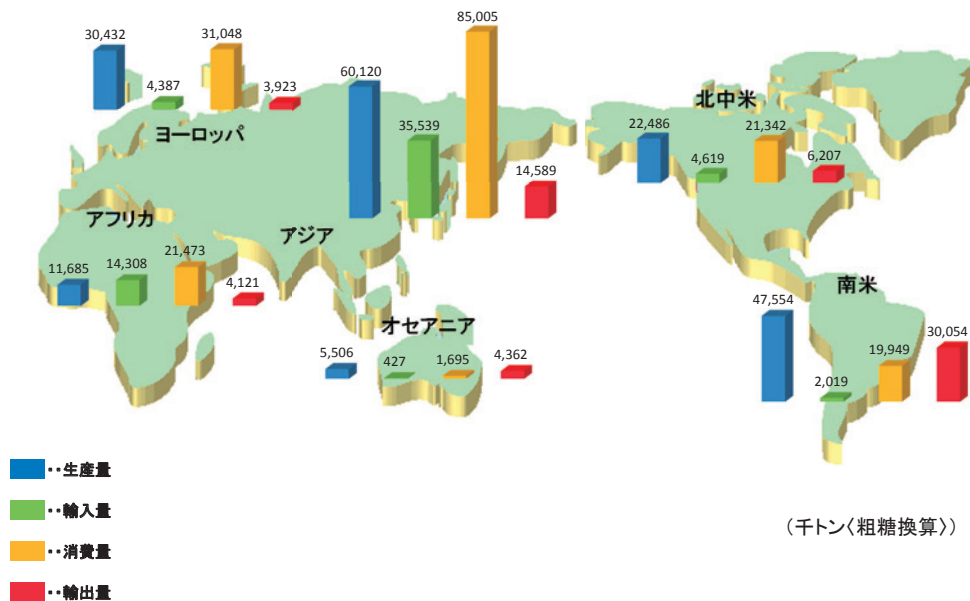


砂糖の国際需給

調査情報部 佐々木 由花

1. 世界の砂糖需給（2017年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2016/17年度予測値）



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, September 2017」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)

注1：年度は2016年10月～翌9月。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2017年9月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億7778万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれている（表1）。これは、主にアジアや南米以外の主要地域で、生産量の増加が見込まれているためである。特に、前年度に在庫抑制などの要因から大幅減産となったEU

は、2017年9月末の生産割当廃止を見越して、前年度比12.8%増と見込まれている。

一方、同年度の世界の砂糖消費量は、人口増加や経済成長に伴い、アフリカやアジアで堅調に推移していることから、1億8051万トン（同0.4%増）と見込まれ、前年度に続き生産量を上回ると予想されている。

そのため、期末在庫率は前年度から2.8ポイント低下し、37.4%と見込まれている。なお、地域別の砂糖需給は図1の通りとなっている。

表 1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年 度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,399	151,603	49,849	161,832	50,974	60,045	37.1
2012/13	64,157	184,162	59,150	171,679	61,545	74,245	43.2
2013/14	74,245	181,494	58,461	175,710	59,205	79,286	45.1
2014/15	79,286	180,704	58,414	178,554	59,538	80,313	45.0
2015/16	80,313	174,636	63,493	179,757	66,414	72,271	40.2
2016/17 (2017年9月予測)	72,271	177,783	61,300	180,512	63,257	67,586	37.4
2017/18 (2017年9月予測)	67,586	191,794	61,212	183,953	63,637	73,002	39.7

資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, September 2017」

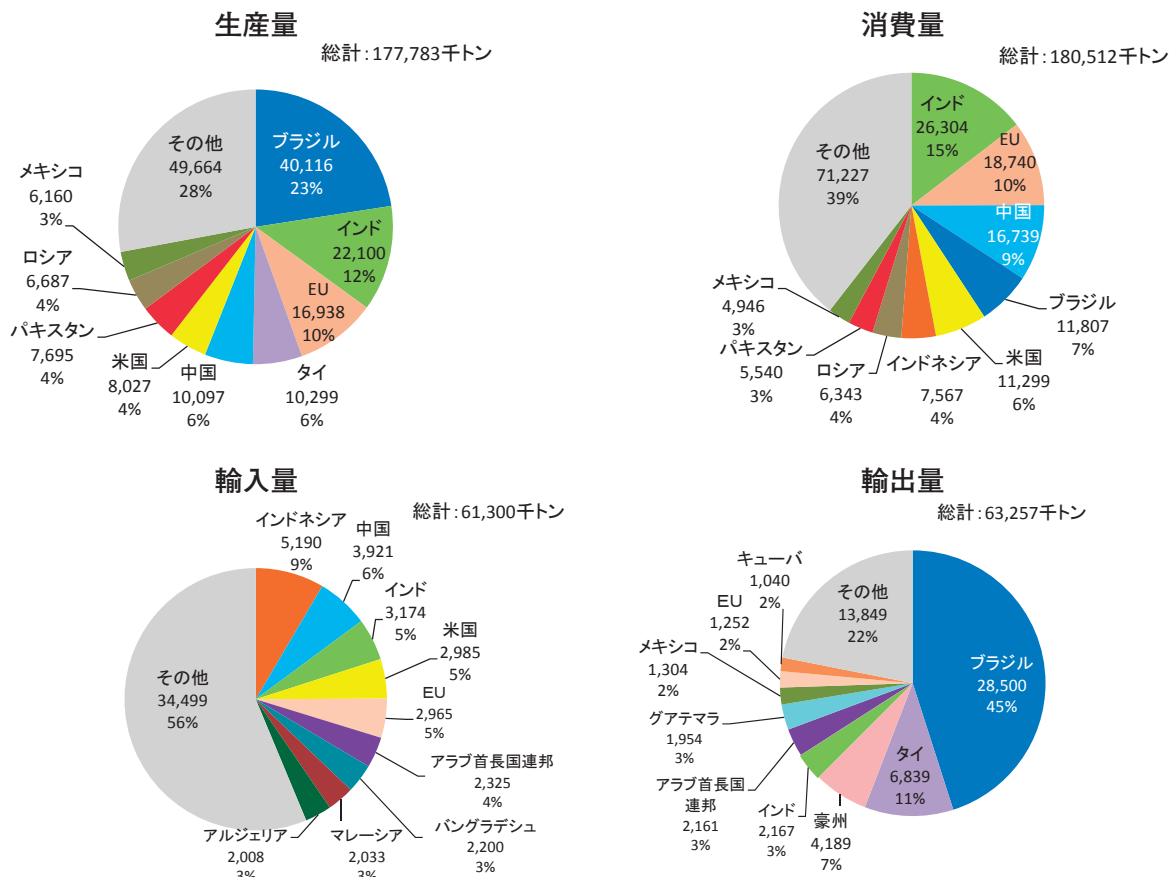
注 1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注 2：2014/15年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値である。

注 3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

2. 主要国の砂糖需給（2016/17年度9月予測値）

図 2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量



資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, September 2017」

注 1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注 2：主要国（上位9カ国）とその他を表示。

注 3：円グラフのその他は総計から主要国の計を差し引いた数値。

【生産量】

2016/17年度（10月～翌9月）の主要国の砂糖生産量を国別に見ると、世界最大の生産国であるブラジルが、4012万トン（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれている（図2）。これは、前年度のサトウキビの収穫には、天候不順のため年度をまたいで行われていたものも多く含まれていたのに対し、今年度はその部分があまりないと見込まれ、収穫面積の減少が予測されているためである。また、インドは、主要生産地域であるマハラシュトラ州やカルナタカ州において、干ばつの影響によるサトウキビ生産量の減少により、2210万トン（同19.3%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、中国は、主要生産地での増産により、1010万トン（同6.7%増）とかなりの増加が見込まれている。また、パキスタンは、綿花からサトウキビへの作付け転換の進展に加え、単収の向上により、770万トン（同38.4%増）と大幅な増加が見込まれている。さらに、ロシアは、てん菜栽培面積の拡大や生育時期の天候に恵まれたことによる単収の向上から、669万トン（同16.0%増）と大幅な増加が見込まれている。

【輸入量】

2016/17年度の主要国の砂糖輸入量を国別に見ると、消費量の増加が見込まれるインドネシアが519万トン（前年度比9.4%増）とかなり増加し、最大の輸入国になると見込まれている。一方、中国は、政府による備蓄在庫の放出や輸入関税の引き上げにより、392万トン（同36.8%減）と大幅な減少が見込まれている。インドは、干ばつ被害による在庫不足を受けて、政府が上限数量を設けた輸入関税減免措置を講じていることから、317万トン（同66.7%増）と大幅な増加が見込まれている。EUは生産量が増加し、域内の砂糖価格が下落傾向にあるため、297万トン（同20.9%減）と大幅な減少

が見込まれている。

【消費量】

2016/17年度の主要国の砂糖消費量については、最大消費国のインドが、国内砂糖価格の高騰などに伴い2630万トン（前年度比2.6%減）とわずかな減少が見込まれている。また、中国は、トウモロコシの臨時備蓄政策の停止によるトウモロコシ価格の低下に伴い、異性化糖需要が高まったことから、1674万トン（同3.1%減）と減少が見込まれている。一方、インドネシアとパキスタンは、旺盛な需要によりそれぞれ757万トン（同8.2%増）、554万トン（同4.0%増）と、ともに増加が見込まれている。

【輸出量】

2016/17年度の主要国の砂糖輸出量については、最大輸出国であるブラジルが、生産量の減少に伴い2850万トン（前年度比4.4%減）とやや減少が見込まれている。タイは、中国向けの減少などに伴い、684万トン（同12.4%減）とかなりの減少が見込まれている。また、インドは、高騰する国内砂糖価格の安定化を図るため、政府が輸出関税の導入や、製糖企業に対する保有在庫数量への上限値の設定を行っていることなどから、217万トン（同47.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

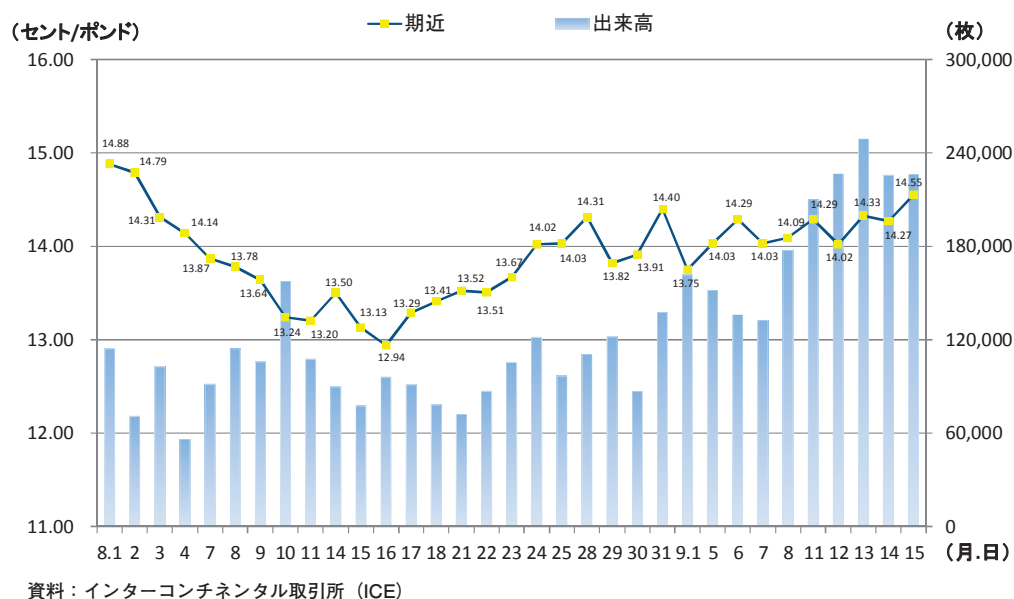
一方、メキシコとキューバは、砂糖の増産などに伴いそれぞれ130万トン（同2.6%増）、104万トン（同30.0%増）と、ともに増加が見込まれている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（8/1～9/15）

～1ポンド当たり12.94セントまで下落するも、エタノール需要の高まりなどから同14セント台まで上昇～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



ニューヨーク粗糖先物相場（期近10月限）の2017年8月の推移を見ると、ブラジルのサトウキビ圧搾量がかなり増加するとの予測や米国と北朝鮮が対決姿勢を強める中で取引市場全体に不透明感が増大したことなどから、11日には1ポンド当たり13.20セントまで下落した。14日には、干ばつが続くブラジルのサトウキビ生産地における連続降雨の予報を受け、収穫作業の遅延が見込まれたことから、同13.50セントと、10日ぶりに反発した。その後、同国での一層の増産が見込まれたことから続落し、16日には6月以来の安値となる同12.94セントまで落ち込んだ。17日には、インドのモンスーン被害や、ブラジルの一部地域での洪水の発生などをを受け、サトウキビの収穫が遅れることが見込まれたため、同13.29セントと反発した。さらに、ブラジル通貨リアルが米ドルに対し高値で推移したことや、エタノールへの輸入関税の導入により、サト

ウキビのエタノール仕向け割合の増加が見込まれたことが押し上げ要因となり、24日には同14.02セントまで上伸した。その後、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注）}が発表した同国中南部のサトウキビ圧搾実績が市場の予想を下回ったことなどから、28日には同14.31セントの値を付け、31日には、ブラジル国営石油公社ペトロbrasによるガソリンおよびディーゼル用燃料価格の引き上げ報道を受けて、同14.40セントまで上昇した。

市場は、8月末に価格が上値に達したとして、9月に入ると、1日は同13.75セントへ急落したが、インド政府が粗糖30万トンの低関税での輸入を許可したことやリアル高が押し上げ要因となり、6日には同14.29セントに上伸した。7日は、インドの砂糖生産量が回復するとの見通しから同14.03セントへ下落したが、大型ハリケーン「イルマ」によるカリブ海諸国や米国フロリダ州などの砂糖生産地域

への影響の懸念から、11日には同14.29セントに上昇した。その後、ブラジルのエタノール需要の高まりから上伸し、15日には約1カ月半ぶりの高値となる同14.55セントの値を付けた。

(注) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年9月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：884万ha（前年度比2.3%減）

生産量：6億4763万トン（同1.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4080万トン（同0.7%増）

輸出量：2870万トン（同0.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれたため、905万ヘクタール（前年度比4.6%増）とやや増加が見込まれている。しかし、サトウキビの新植が進まず単収が低下したため、生産量は6億5718万トン（同1.3%減）とわずかな減少が見込まれている（表2）。

一方、砂糖生産量は、国際砂糖価格の上昇により、製糖企業がサトウキビを砂糖へ仕向ける割合を増やしたことに加え、製糖歩留まりが向上していることなどから、4053万トン（同15.2%増）とかなりの増加が見込まれている。こうした増産見込みに伴い、輸出量は過去最高の2874万トン（同14.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、884万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少するものの、生産量は単収の向上から、6億4763万

トン（同1.5%減）とわずかな減少にとどまると見込まれている。

砂糖生産量も、4080万トン（同0.7%増）と前年度並みと見込まれている。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているためである。輸出量については、国際的な砂糖の輸入需要の緩やかな減少に伴い、2870万トン（同0.1%減）と見込まれている。

なお、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）^{（注1）}が8月24日に発表したサトウキビなどの2017/18年度生産見通しによると、サトウキビ栽培面積は877万ヘクタール（同3.1%減）とやや減少するものの、1ヘクタール当たりの収量が73.7トン（同1.5%増）と見込まれるため、サトウキビ生産量は、6億4634万トン（同1.7%減）とわずかな減少にとどまると見込まれる。これに対し、砂糖生産量は、3939万トン（同1.8%増）と過去最高に達すると見込まれている。

UNICAが発表した2017年4～8月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は3億8152万トン（前年同期比3.6%減）とやや減少したものの、砂糖生産量は2326万トン（同

3.4%増)とやや増加した。同報告によると、エタノール生産量は、1529万キロリットル(同7.5%減)とかなり減少した。輸出量も含めたエタノールの販売量は、1048万キロリットル(同11.3%減)となった。このうち、含水エタノール(注2)の国内販売量は、ブラジル国営石油公社ペトロブラスがガソリン平均卸売価格を引き下げていることから、573万キロリットル(同14.9%減)とかなり減少した。

現地報道によると、政府は7月、燃料に対する社会負担税(PIS/Cofins)のうち、エタノールの税率を引き下げる一方で、ガソリンとディーゼル用燃料の税率を引き上げると発表した。これにより、ガソリンに対するエタノールの価格競争力が高まり、製糖企業がサトウキビのエタノールへの仕向け割合を増加させることから、砂糖の需給バランスが調整され、砂糖価格の安定が期待されている。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁(ANP)によると、8月の含水エタノール小売価格(サンパウロ州)は、1リットル当たり2.42レアル(85円<8月末日TTS:1レアル=35円>)とガソリン小売価格の同3.56レアル(125円)の70%(注3)を下回っている。

また、政府は8月23日、エタノール輸入に対し、年間60万キロリットル(四半期ごとに15万キロリ

ットル)の無税の関税割当を設けるとともに、これを超過して輸入されるエタノールに対しては20%の関税を課すことを決定した。同関税は、エタノール在庫量の低下に伴い停止した2010年以降の再導入で、2年間実施された後、見直しが予定されている。同措置は、国内のエタノール生産量が減少し、米国からのトウモロコシ由来のエタノール輸入量が急増している状況を受け、UNICAや北東部の砂糖エタノール製造企業などが、以前から政府へ実施を要請していた。

(注1) 主要作物の生産状況報告や予測などを行っているブラジル農牧食糧供給省直轄の機関。

(注2) 自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車(ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車)でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

(注3) 一般的なフレックス車のエタノール燃料効率がガソリンの70%程度とされていることから、消費者の購入判断の基準となっている。

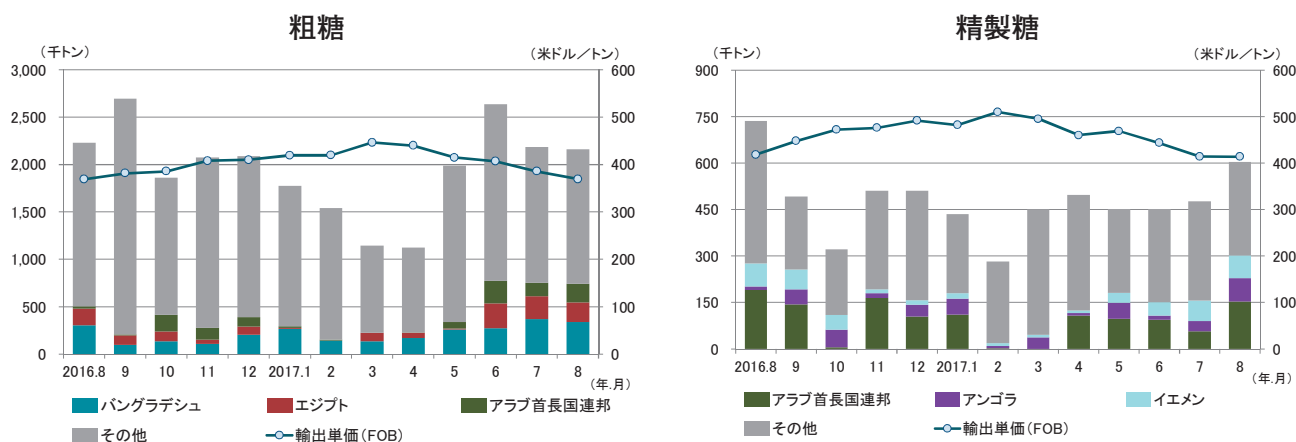
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (8月予測)	2016/17 (9月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (8月予測)	2017/18 (9月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,811	9,004	8,655	9,049	9,049	4.6	8,839	8,839	▲ 2.3
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	657,184	657,184	▲ 1.3	647,626	647,626	▲ 1.5
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,534	15.2	40,800	40,800	0.7
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	11,800	11,700	▲ 0.8	11,900	11,900	1.7
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,740	14.4	28,700	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,296	2,543	813	906	11.5	1,106	1,106	22.1
	期末在庫率	18.2	20.5	6.9	7.7	12.4	9.3	9.3	20.0

資料: Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, September 2017]

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料:「Global Trade Atlas」

注: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2016/17年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 474万ha(前年度比6.2%減)

生産量: 3億672万トン(同14.5%減)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量: 2210万トン(同19.3%減)

輸出量: 217万トン(同47.2%減)

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅減の見込み

2016/17砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビ収穫面積は474万ヘクタール(前年度比6.2%減)、生産量は3億672万トン(同14.5%減)と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。さらに、砂糖生産量も、2210万トン(同19.3%減)と製糖歩留まりの低下により大幅な減少が見込まれている(表3)。インド砂糖製造協会(ISMA)が3月初旬に発表した見通しによると、1～2月にかけてマハラシュトラ州やカルナタカ州などで当初の予想以上に単収が低下していることなどから、同年度の砂糖生産量は、精製糖換算で2030万トンと見込まれている。

中央政府は、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰していることを受け、2016年6月中旬以降、砂糖の輸出(粗糖を輸入して6カ月

以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除く)に対し、輸出関税(20%)を導入している。さらに、2017年4月中旬には、貿易業者に対する砂糖の保有在庫数量の上限の設定期限を2017年4月末から同年10月末まで延長することを公表した。背景には、国内で精製された砂糖を市場に放出することで、国内消費量を充足するとともに、砂糖価格の安定を図る目的がある。これらにより、砂糖輸出量は、217万トン(同47.2%減)と大幅な減少が見込まれている。

一方、砂糖輸入量は、国際価格の下落や中央政府が先ごろ粗糖50万トンについて無税での輸入を許可^(注)したことにより、輸入粗糖を原料とする精製糖生産の利益が増加するとみられていることなどから、317万トン(同66.7%増)と大幅に増加すると見込まれている。

現地報道によると、政府は製糖企業に対し、9月

および10月における砂糖の保有在庫数量の上限値を公表した。これによると、9月は、2016/17年度生産見込量の21%、10月は同8%が上限とされている。

また、現地報道によると、中央政府は9月7日、新たに粗糖30万トンについて25%の低税率での追加輸入を許可することを明らかにした。これは、9～10月にかけて、特に干ばつの被害が大きかった南部地域の砂糖の在庫不足を補うため、同地域の製糖企業を対象とするものとみられており、2016/17砂糖年度において2度目の輸入関税減免措置となる。同措置によって輸入された砂糖は、10月中旬までに精製され、販売されることが条件となっている。なお、ISMAは、砂糖の輸入増加による国産糖の需要の低下を懸念し、砂糖の輸入関税

を現行の40%から60%まで引き上げるよう求めていたが、これに対し、中央政府は7月10日、ISMAの要求を下回る50%に引き上げることで応じている。

ISMAは7月中旬、6月の観測結果を基にした2017/18年度の生産予測を公表した。これによると、砂糖生産量は精製糖換算で2510万トン（前年度比23.6%増）と大幅な増加が見込まれている。州別に見ると、ウッタルプラデシュ州は995万トンと全体の4割を占め、マハラシュトラ州は740万トンと見込まれている。

（注）当該措置は、砂糖生産量が、干ばつにより大幅に減少し、消費量を下回ると見込まれること、また、マハラシュトラ州の製糖企業による再輸出用粗糖100万トンの輸入申請が行われたことなどを受けて実施されたものである。

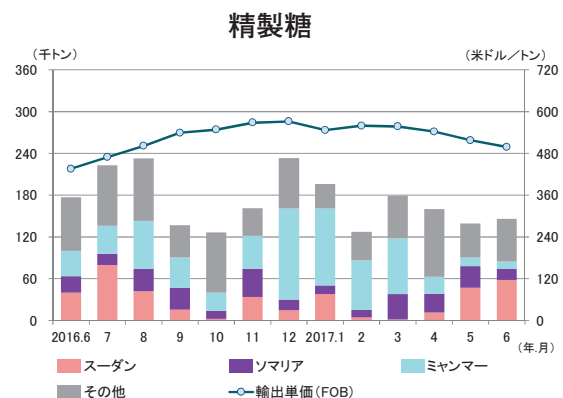
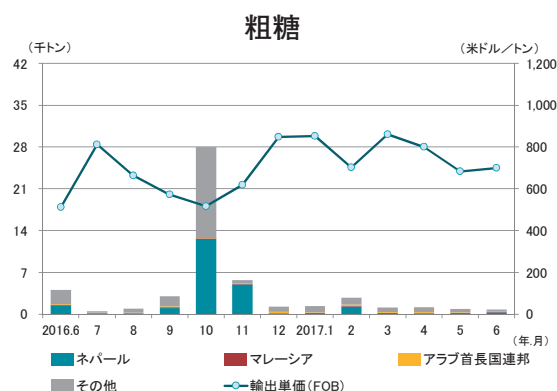
表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (8月予測)	2016/17 (9月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (9月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2	4,978	5.0
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	306,720	▲ 14.5	337,690	10.1
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,372	22,100	▲ 19.3	27,200	23.1
	輸入量	1,349	1,303	1,904	3,100	66.7	2,000	▲ 37.0
	消費量	26,295	27,842	27,011	26,304	▲ 2.6	27,500	4.5
	輸出量	2,742	2,608	4,105	2,016	▲ 47.2	1,100	▲ 49.2
	期末在庫量	8,223	9,692	7,851	4,732	▲ 40.7	5,254	12.9
	期末在庫率	31.3	34.8	29.1	18.0	▲ 39.1	19.1	8.0

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, September 2017]

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha（前年度比10.0%増）・15万ha（同10.0%増）
生産量：1億2652万トン（同7.9%増）・771万トン（同5.0%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】

生産量：1010万トン（同6.7%増）
輸入量：392万トン（同36.8%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量が1億2652万トン（同7.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表4）。これは、最大生産地域である広西チワン族自治区や海南省における栽培面積の増加と良好な生育状況が要因である。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール（同10.0%増）とかなり増加し、生産量は771万トン（同5.0%増）とやや増加が予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、1010万トン（同6.7%増）とかなりの増加が見込まれている。

中国砂糖協会（CSA）が発表した2016/17年度の生産実績報告によると、砂糖生産量は精製糖換算で929万トン（同6.8%増）とかなり増加した（図4）。これは、サトウキビおよびてん菜の栽培面積拡大により、甘しゃ糖が824万トン（同5.0%増）、てん菜糖が105万トン（同23.2%増）と、ともに増加したことによる。

さらに、中央政府は2016年10月以降、入札により備蓄砂糖を国内企業へ売り渡しており、1月時点で合計約65万トンが市場に放出された。現地報道によると、9月中に広西チワン族自治区で33万トン、その他にも37万トンが売り渡されるとみられている。CSAは、2016/17年度に200万トン程

度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいた。

こうした中、中央政府は5月22日、2016年9月から実施した砂糖の輸入先国によるダンピング疑惑の調査^{（注1）}の結果を踏まえ、2017年5月22日から2020年5月21日までの3年間、世界貿易機関（WTO）協定に基づく関税割当（194万トン、関税率15%）の枠外で輸入される砂糖の関税率を、現行の50%から95%まで引き上げることを公表した^{（注2）}。このため、7月の砂糖輸入量は5万9533トン（同85.6%減）と、2013年6月以来の最低となり、2017/18年度全体では、392万トン（同36.8%減）と大幅な減少が見込まれている。枠外関税率は、毎年度5%ずつ引き下げられる予定であるが、ミャンマーなどからの「非公式な」砂糖の流入および第三国経由での輸入量の増加が懸念されている。中央政府は2～5月、「非公式に」流入した砂糖を6500トン以上押収しており、今後も国境での監視を強化するとしている。こうした中央政府による砂糖流入の取り締まりにより、ミャンマーでは中国に輸出不可能となった砂糖80万トンが市中に出回り、国内の砂糖価格が3カ月前と比べて3割ほど下落する事態が生じている。

（注1） 海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして実施した調査であり、対象は、輸入量が急増した2011年以降で、粗糖の上位輸入先国であるブラジルおよび豪州ならびに精製糖の主要輸入先国である韓国などが対象国となっていた。

（注2） 開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

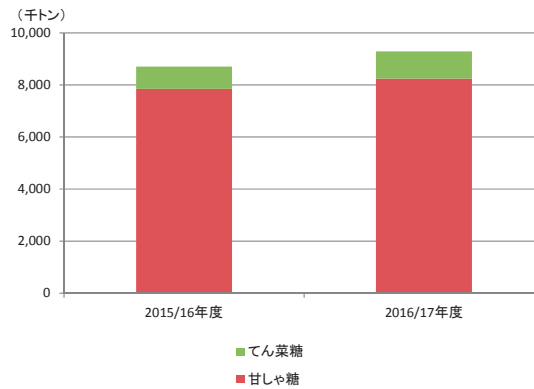
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (8月予測)	2016/17 (9月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (9月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	1,927	5.5
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	136,998	8.3
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0	195	30.9
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	11,000	42.8
生産量	14,476	11,474	9,459	10,097	10,097	6.7	12,100	19.8
輸入量	4,054	5,354	6,199	4,291	3,921	▲ 36.8	5,750	46.7
消費量	16,150	16,600	17,283	16,739	16,739	▲ 3.1	17,500	4.5
輸出量	51	64	167	100	112	▲ 33.1	80	▲ 28.5
期末在庫量	7,141	7,305	5,513	3,062	2,680	▲ 51.4	2,950	10.1
期末在庫率	44.2	44.0	31.9	18.3	16.0	▲ 49.8	16.9	5.3

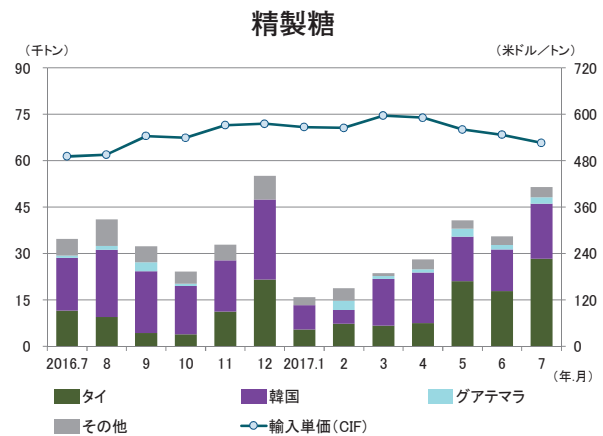
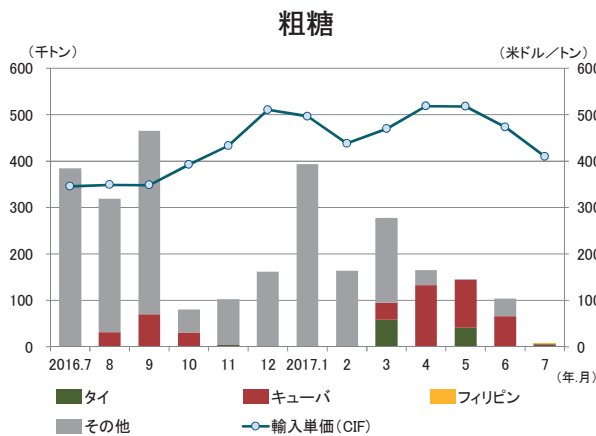
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, September 2017」

図4 中国の砂糖生産実績



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）

生産量：1億1843万トン（同12.6%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1694万トン（同12.8%増）

輸入量：297万トン（同20.9%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜の収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1843万トン（同12.6%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表5）。2017年10月以降の生産割当廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっていた一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られていた。記録的な生産量となった前々年度に比べ、春先の低温や降雨のため単収は低下すると見込まれているものの、歩留まりの向上などにより前年度と比べて産糖量の増加が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1694万トン（同12.8%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖の増産や域内の砂糖価格の下落に伴い、砂糖輸入量は、297万トン（同20.9%減）と大幅な減少が見込まれている。

欧州委員会は7月12日、砂糖を含む農産物の短期需給見通しを公表した。これによると、2016/17年度のてん菜生産量は、1億700万トン（同5.2%増）と、直近10年間で最低水準となった前年度からやや増加し、砂糖生産量は精製糖換算で1680万トン（同13.3%増）とかなりの増加が見込まれている。

また、これによると、生産割当制度の廃止に伴い、2017/18年度のてん菜生産量は、主にベルギー、フランス、ドイツ、オランダ、ポーランドが栽培面積を大きく拡大していることから、1億2790万トン（同19.6%増）、砂糖生産量は2010万トン（同19.6%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。これに伴い、EU域内の価格が下落し、国際価格との差が拡大することから、輸入量は、150万トン（同49.0%減）と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量が増えるとともに、WTOの裁定により設けられた輸出上限が撤廃されることから、280万トン（同2倍）と見込まれている。ただし、輸出量は、国際価格に対するEU価格の動向に左右されるものとみられる。

なお、現地報道によると、欧州清涼飲料水連盟（UNESDA）^{（注）}は9月6日、域内の中学校への飲料の販売を、低糖分および無糖のものに限るよう、会員企業へ自主的な取り組みを呼び掛けた。これは2006年以降の小学校への清涼飲料水販売禁止に続く取り組みとなる。UNESDAによると、今回の対象規模は、中学校数5万校、生徒数4000万人以上と見込まれている。

（注）ヨーロッパの清涼飲料水製造企業および22の国単位の協会などが加入する非営利団体（アルコールやミネラルウォーターなどの部門は含まない）。欧州委員会に対する意見の申し入れなどを行う。

表5 EUの砂糖需給の推移

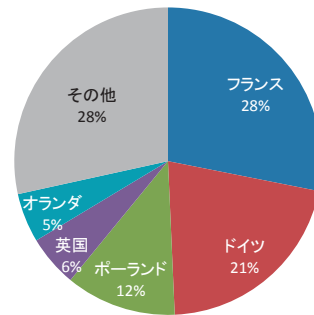
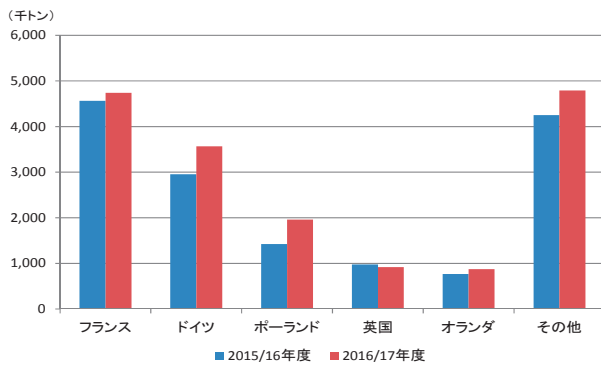
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (8月予測)	2016/17 (9月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (9月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8	1,592	0.0
てん菜生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	118,426	12.6	118,903	0.4
砂糖	生産量	17,123	19,147	15,011	16,938	12.8	16,989	0.3
	輸入量	3,944	3,456	3,750	2,965	▲ 20.9	2,968	0.1
	消費量	19,286	19,245	18,719	18,740	0.1	18,759	0.1
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,252	▲ 16.9	1,253	0.1
	期末在庫量	8,799	10,599	9,135	9,046	▲ 1.0	8,990	▲ 0.6
	期末在庫率	45.6	55.1	48.8	48.3	▲ 1.1	47.9	▲ 0.7

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, September 2017」

注：期末在庫量は、非食用などを含む。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2016年12月時点での予測値。

注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。

注4：生産割合は2016/17年度。

5. 日本の主要輸入先国の動向 (2017年9月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はグアテマラを報告する。

豪 州

2017/18年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：40万ha（前年度比1.8%増）

生産量：3556万トン（同0.2%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：531万トン（同7.5%増）

輸出量：400万トン（同0.8%増）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに減少、 輸出量はやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3550万トン（同1.9%増）とわずかな増加が見込まれている（表6）。5～6月に収穫されたサトウキビについては、3月に襲来したサイクロンの影響により、製糖歩留まりの低下が見られることから、砂糖生産量は494万トン（同2.2%減）とわずかな減少が見込まれている^{（注）}。また、輸出量も、中国向けの減少などに伴い、397万トン（同4.4%減）とやや減少が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、 輸出量は前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は40万ヘクタール（前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれるものの、サイクロンの影響による単収の低下から、生産量は3556万トン（同0.2%増）と前年度並みにとどまると見込まれている。砂糖生産量は531万トン（同7.5%増）とかなりの増加が見込まれているが、サイクロンの被害状況によっては、今後下方修正される可能性がある。輸出量は、中国向けの需要が減少すると見込まれることなどに伴い、400万トン（同0.8%増）と前年度並みが見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が6月中旬に公表した2017/18年度の生産予測によると、サトウキビ栽培面積は38万ヘクタール（同2.2%増）とわずかに増加するものの、サイクロンの被害に伴い、砂糖生産量は、482万トン（同0.4%増）と前年度並みが見込まれている。輸出量についても、407万トン（同0.3%増）と前年度並みが見込まれている。

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）が発表した生産実績によると、5月下旬～9月上旬のサトウキビ圧搾量は1828万トンであった。なお、ASMCは、2017/18年度のサトウキビ圧搾量見込みを3405万トンと8月中旬時点予測から18万トン下方修正している。

現地報道によると、クイーンズランド州では、州の半域がサイクロンに襲われたため、サトウキビの損失額が1億5000万豪ドル（133億5000万円〈8月末日TTS：1豪ドル＝89円〉）に上ると推定されている。特に被害が大きかった北部地域では、被害からの完全な回復には10年を要すると見込む生産者もいる。

（注）豪州の砂糖年度は7月～翌6月とされているが、例年5～6月ごろから製糖が開始される。5～6月の数量は、前年度の数量に含まれる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (8月予測)	2016/17 (9月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (8月予測)	2017/18 (9月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	329	363	381	393	393	3.2	400	400	1.8
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	35,500	35,500	1.9	35,556	35,556	0.2
砂糖	生産量	4,306	4,780	5,052	4,940	▲ 2.2	5,312	5,312	7.5
	輸入量	159	170	76	139	83.1	110	110	▲ 21.0
	消費量	1,345	1,337	1,298	1,280	▲ 1.5	1,355	1,355	5.9
	輸出量	3,066	3,687	4,152	3,970	▲ 4.4	4,000	4,000	0.8
	期末在庫量	1,162	1,088	766	596	▲ 22.3	662	662	11.1
	期末在庫率	86.5	81.4	59.0	46.5	▲ 21.1	48.8	48.8	4.9

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, September 2017」

タイ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）

生産量：9300万トン（同1.1%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1030万トン（同2.7%増）

輸出量：684万トン（同12.4%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに増加、輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、単収の低下が見込まれることから、生産量は9300万トン（同1.1%減）とわずかな減少が見込まれる（表7）。

しかし、砂糖生産量は、長引く干ばつの影響があったものの、製糖歩留まりの向上が見られることなどから、1030万トン（同2.7%増）とわずかな増加が見込まれている。また、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、684万トン（同12.4%減）とかなりの減少が見込まれている。

タイ製糖協会によると、5月3日までに2016/17年度のサトウキビの圧搾が終了し、同年度のサトウキビ圧搾量は9295万トン（同1.2%減）とわずかに減少した。干ばつの影響によるサトウキビの減産に伴い、サトウキビ圧搾量が前年度比で8%減少した工場も見られた。

政府は現在、砂糖産業関連法の改正（注1）に向け

た手続きを行っている。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式や販売割当（注2）、および政府が設定している国内砂糖価格は廃止されるとみられる。現地報道によると、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）（注3）は5月中旬、各製糖企業に対し、国内供給用に、生産量の一定割合を常に在庫として確保するよう求めること、今後は、OCSBが国際価格を基に算出した基準価格を発表することなど、改正の方向性について関係者間で合意に達したと明らかにし、改正法は11月までに施行される見込みであるとした。

また、現地報道によると、砂糖小売価格については、商務省が法改正後の12月以降も引き続き監視するとみられる。現在、砂糖小売価格は、1キログラム当たり23.50バーツ（80円〈8月末日TTS：1バーツ＝3.41円〉）を上回らないよう管理されており、商務省は毎月、基準価格（または参考価格）を公表することで、今後も小売価格が基準価格以下となるよう促すものとみられる。

現地報道によると、政府は9月16日、糖類を含む飲料に対する課税を実施した。税率は糖類含有量に応じて6段階に設定され、100ミリリットル当たりの糖類含有量が①0～6グラム未満の場合、非課税②6グラム以上8グラム未満の場合、1リットル当たり0.1バーツ（0.34円）③8グラム以上10グラム未満の場合、同0.3バーツ（1円）④10グラム以上14グラム未満の場合、同0.5バーツ（2円）⑤14グラム以上18グラム未満の場合、同1バーツ（3円）⑥18グラム以上の場合、同1バーツ（3円）となっている。飲料製造者が徐々に糖類を減らした製品を製造できるよう、6年をかけて、段階的に糖類含有量の上限値が引き下げられるものとみられる。製造業者には2年間の猶予期間が与えられ、実際の課税は、2019年10月1日に適用される見込みである。

- (注1) タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）によると、改革案は現在、閣議レベルで吟味されているが、公聴会を実施してから再提出するよう、OCSBへ返却されている。改革案は近いうちに閣議へ再提出される予定となっている。
- (注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。
- (注3) タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

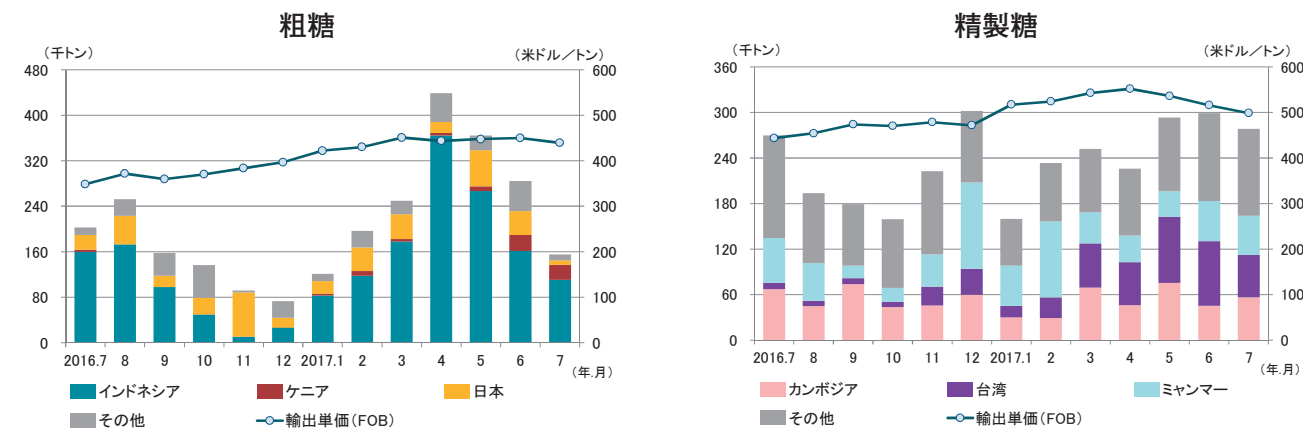
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位: 千ha、千トン、%)

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (8月予測)	2016/17 (9月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (9月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2	1,540	9.4
サトウキビ生産量		100,096	105,595	94,047	93,000	93,000	▲ 1.1	105,000	12.9
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	10,299	10,299	2.7	12,000	16.5
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	3,500	0.0	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	6,770	6,839	▲ 12.4	6,800	▲ 0.6
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	4,536	4,467	▲ 0.9	6,167	38.1
	期末在庫率	5768270.0	5787753.0	4,507,561.0	129.6	127.6	▲ 100.0	176.2	38.1

資料: Agra CEAS Consulting 「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, September 2017」

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注: HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

グアテマラ

2016/17年度（11月～翌10月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：26万ha（前年度比1.5%増）

生産量：2415万トン（同1.3%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：286万トン（同3.7%減）

輸出量：195万トン（同5.6%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともにやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（11月～翌10月）のサトウキビの収穫面積は、26万ヘクタール（前年度比1.5%増）、生産量は2415万トン（同1.3%増）と、ともにわずかな増加が見込まれている（表8）。し

かし、製糖歩留まりが低下していることから、砂糖生産量は、286万トン（同3.7%減）とやや減少すると見込まれている。

これに伴い、輸出量も195万トン（同5.6%減）とやや減少すると見込まれている。

表8 グアテマラの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (6月予測)	2016/17 (9月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		262	262	252	256	256	1.5
サトウキビ生産量		26,335	26,335	23,844	24,151	24,151	1.3
砂糖	生産量	2,949	3,130	2,970	2,850	2,860	▲ 3.7
	輸入量	1	1	1	1	1	0.0
	消費量	910	900	900	900	900	0.0
	輸出量	1,993	2,411	2,066	1,995	1,950	▲ 5.6
	期末在庫量	490	310	315	267	326	3.5
	期末在庫率	53.8	34.4	35.0	29.7	36.2	3.5

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, September 2017」